



「総合車両センター教育体制の見直しについて」に関する申し入れ 団体交渉を行う③！

8. 技術教育の集約後の基礎技術教育、技能競技会、技能検定、外国人実習生の受け入れに関して、大宮総合車両センター生産管理科や現場の負担が増えないようにすること。

【会社回答】状況に応じて、必要な対応を行っていく考えである。

【確認事項】・技能検定、技能競技会は、共通的な事務業務(スケジュール管理や材料の手配など)を集約する。

その他は従来通りとする考え。

・外国人実習生の受け入れについては、受け入れる側の現場や OJT を担うインストラクターの負担とならないように調整をすべきであると認識一致。

※4月14日に大宮総合車両センター内で発生した社員の受傷についても議論しました。

組合：詳細は組合側でも調査しているが、1人の社員が外国人実習生と逆出向者(どちらも経験が浅い)を同時に教育していたと聞いている。実態は把握しているか。

会社：事象は把握しているが、当日の教育体制の詳細までは把握していない。

組合：事実だとすれば、危険を伴う作業をしているに関わらず、1人の社員が経験の浅い2人の社員を見ていたことになる。あってはならないことであるが、首都圏本部としての認識はどうか。

会社：詳細はこれから調査していくが、社員が受傷したことは首都圏本部としても重く受け止めている。

組合：外国人実習の受け入れはどこが所管しているのか。

会社：本社から受け入れ先と具体的な教育内容が指示されている。

組合：申し入れ内容からそれてしまうため、この場で深く議論はしない。しかし、外国人実習生の受け入れについては、受け入れ先の業務量や OJT を担うインストラクターの負担を考慮したうえで行うべきである。

会社：本社が所管しているところであるが、認識は一致する。

9. 車両系統以外からの車両技術教育のニーズへの対応や、他系統から車両系統への職種転換者に対する技術教育を準備し行うこと。

【会社回答】引き続き、必要な教育・訓練は実施していく考えである。

【確認事項】・他職種からの転入者に対する基礎技術教育の必要性に関する問題意識は一致する。カリキュラムの検討について議論していく。

10. 施策実施後は労使で検証を行い、発生した問題点については別途協議するとともに、速やかに解決すること。

【会社回答】具体的な提起があれば、協約に則り取り扱うこととなる。

現場のニーズに基づいた、技術教育ができる体制をつくりだそう！